
CLANNAD
-クラナド-
オフィシャルコミック 6
原作: KEY
漫画: みさき樹里
GR COMICS

CLANNAD
official
comic 6

key / misakichi



CR COMICS


CLANNAD
-クラナド-
オフィシャルコミック 6

Contents





第30回
～帰り道の空白～


俺 こいつと一緒になる
…ほう
そうか…
それはめでたい
ええと… 渚さんと言ったか…
はい


朋也くんを よろしく お願いします
はい
こちらこそ よろしく お願いします
入籍の直前 渚にうながされて 親父と会う事に なった
――憂鬱だ
渚 時間だ 行くぞ
あ…はい
きっと これからも 度々会わないと ならないだろう
それが 例え 形だけの繋がりだとしても
――それでは
…お義父さんも 頑張って ください


…ありがとう
バタン
これからは
ね
朋也くん
…ああ
そうだな…
もっと
ちょくちょく
会いに来ましょう


―渚
はい
…やるせない
渚と　あの人の間に
深い繋がりが
できてしまった



岡崎 渚
岡崎 渚
岡崎 渚
早く慣れないと うっかり古河って 言ってしまいそうです
何もすぐ 練習しなくても いいんじゃないか
でも 朋也くんと同じ 苗字で嬉しいので…
なんだか 少し強くなれた ような気がします
――なるほど… ただの決まりだから って思ってたけど
そういう意味も あるのかも しれない…
――あの人も 同じだけれど
渚がそう思うなら 考えたって 仕方ない事だな――…
ふぅ――
…しっかり しないとな 俺も
わたしもです
今度 ちゃんと 働くとこ探して バイト始めたいと 思います



——え…
バイトぉぉ!?
はい
もう学校も卒業しましたし
これからは朋也くんだけじゃなくわたしも頑張って働きたいです
うっ。。。
もちろん家事はちゃんとやります…バイト探してもいいでしょうか?
——……
んな急いで働かなくても…
それに…ホラ
いつまた体調が悪くなるかもしれないし…
…わたしは弱い自分だからって
そうやって甘えていたくないです…
あ
しまった
頑張れるなら自分のできる事頑張っていたいです


ア〇〇
…悪かったよ…
…わかった
そのかわり
無理するよう
だったら
止めるからな…
!
はいっ
ありがとう
ございます
やれやれ…
言い出したら
きかねぇよな
お前
—バイトか…


翌日
渚はすでに働くアテを探していた
なんでも 仁科と連絡をとりあっていたらしい
実は 仁科さんは音楽の学校に入るため勉強中なんです
なるほど
それじゃ仁科もバイト探してるって事か
浪人中だったのか
はい
場所は…覚えてますか?
朋也くんの家から学校へ行く道の途中に空き地があったの
ああ――…あったな そういや
あそこに近々ファミレスがオープンするらしくてバイト募集してるんです
んっと
仁科さんから一緒にどうかって誘ってもらいました
バイト
面接 行っていいでしょうか…



――……
ファミレスって事はウェイトレスだよな
はい
立ちっぱなしで相当キツイと思うぞ…？
慣れればきっと大丈夫ですよっ
うーむ…
朋也くん
だって立ちっぱなしで接客だぞ…
変な客だって来るかもしれないし…
もん もん
いや…それとも俺の心配のしすぎなのか…？
ちらっ
…わかった
俺はいいよ
バイトの許可する！
ありがとうです朋也くん
バイト頑張りますっ
ま…
仁科も一緒だし
全く知らないとこより
まだ安心
できるしな…
ブツブツ



…面接終わってから言えってのーし
あ　そうでした
無理だけはすんなよ
あと一応早苗さんたちに話通しとくからな
はいっ
…考えすぎなのかもしれない
渚が俺から離れて行ってしまうわけがないのに
その後
早苗さんたちからも　あっさり許可が出て
面接　そして採用と渚のバイトはトントン拍子に決まった
そして
バイト初日——


ただいまー
おかえりなさい朋也くん
ほ…
お疲れさまですごはん もうすぐできますので
バタン
おいおい
渚の方が疲れてんだろ
バイト初日だったんだし
今日は俺がやるから休んでていいよ
いえ大丈夫です
それにバイト始めても家事はきちんとするって決めてましたから朋也くんこそ休んでください
む…



俺は慣れてるからいいんだよ
今日くらい代わるって
うーん…でも…
あ
じゃあふたりでやりましょう
がくぅっ
?
いや…いいよふたりでやろう
こういう時くらい甘えてくれてもいいのに…
コネ
コネ
——で
どうだったんだ?バイトの方は
む…こんなもんか?
はい大変でした
今日からオープンだったせいかすごく人が多くて…忙しかったです
へぇそんなにか
はい
みんな 完成を待っていたのかもしれません


確かに この町は そういうの なかったからな…
ぶら ぶら
はい でも なんだか 楽しかったです
パン屋に 来てくれてた 方もいて
わたしが 働いてるのに 驚いてたみたいです
まさか 初日に 会ってしまうと 思ってません でしたけど…
頑張ってねって 声をかけて もらって 嬉しかったです
――そっか よかったな
はい …少し 恥ずかし かったですけど…
…実は 制服が すごくかわいい んです そこ
!?
…それは 聞いて なかったな…
あ…はい
わたしも 今日 初めて 着ました…


でも…みんな
かわいいねって
言ってくれて
てれ
えへへ
なんだか
すごく
恥ずかしかったです
――……
…渚
俺のために
着てくれ…
…働いてる
お前の姿が
見たいんだ…
えぇぇぇえぇっ
そのタイミングで
言われると
何か違う気が
しますっっ
せ 制服は
バイト先に
ありますし
シフトも続きますしっ
そんな目を
されたら
困ってしまいます…
はっ
俺は今 何を…
――まあ…
俺だって平日は
仕事だし…
しばらく
行けるような
時間もないか…
それに…
朋也くんに
見られるのは少し
恥ずかしいです…
あ…ああ
冗談だよ
冗談！
おホラ
こげるぞ
ハンバーグ
本当に
冗談でしたか…？


じゃ お疲れ 岡崎
あ… お疲れ様です 芳野さん
パタン…
せっかく空いた時間だ 有効に使えよ
はぁ ははは
ぽつん…
…仕事が昼で上がりになっちまった…
…なんつー タイミング…!!
ガッ
これはもう行くしかないだろ…
はっ
いやいや待てよ…そもそも
朋也くんに見られるのは恥ずかしいです…っ
——って言ってたじゃん…迷惑だろ…



とりあえず…早苗さんとこに顔出してみよう
と
ちわーす
いらっしゃい——…って
なんだてめぇかよ
こんな時間になんだクビでも切られたか
なるかっ
仕事が早く終わったんだよ
つーか早苗さんは？
…ところで小僧
話は聞いたぞ…
早苗なら町内を徘徊中だそのうち戻ってくるだろ
また泣かしたのかアイツ
あそ…
——え…
？何を…


とぼけんじゃねぇっ!
くわっ
渚だよ!!
渚のバイト先のエロかわいい制服だよっっっ!!!
ウチに来る客という客口をそろえて言いやがる…
かわいかった…とな!!
ズルいじゃねーか!親の俺すら見てねぇっつーのに!!
そこでこれ秘密兵器
ペカーっ
これさえありゃ渚のあられもない制服姿なんかイチコロよ!
変態かっあんたは!!
フツーに見に行きゃいいだろっ俺だって見てねぇよ!
馬鹿野郎!
娘のそんな晴れ舞台写真におさめておきたいのが親心だろうが!!


なんだ てめぇも見てねぇのなら都合がいい
なんでだよ
てめぇがいりゃ渚を引きつけられるだろ
そのスキに俺がベストショットを激写できるじゃねーか
あのな…
それとも何か息子のくせに言う事が聞けねぇってのか
ぞわわわ
今ちょっとぞくぞくきたぞ…っ!
そんな言い方やめてくれっ お義父さんっ
ぶるるっ
うぉぉおっ!?
こっちもぶるっときたぜっ!
なら見返りとして写真の焼き増しはどうだ 息子よっ!!
うぐっ
息子を物で釣ろうなんて卑怯だぜ お義父さん——っっ
うぉおおーっ
ぐぁああっ


カラ ラ…
…あら
朋也さんっ 来てらしたんですね
大ダメージ
…ども
言っとくけどな
俺は 渚が 心配で 行くんだからな!
釣られた わけじゃ ねぇぞ…!
チャッ
素直に なれよ 小僧…
そんなんじゃ いい写真は とれねぇぜ
——…
その サングラスは なんだよ
もちろん 変装だ
すげぇ バレバレ だからな…
俺とオッサンは 渚のバイト先へと 向かった



学校の前を通り
元の通学路
だった道へ
この辺通るのも
久しぶりたな
よく
見慣れた道だ
そうそう
それで
あのカーブを
曲がれば空き地が
あったんだ


Ernesto Host
Ernesto Host
IN
あ…
──空き地が
うお…すげぇな
いつの間にこんなモンできてたんだ…？
──…
ここも変わっちまったのか…


よし…
入るぜ 小僧
あ ああ…
古い記憶は 新しい記憶で 上書きされた
カランカラン
いらっしゃいませ――っ
はいっ
ただ今 席に ご案内しますので 少々お待ち くだ――…
あっ!? 岡崎さん?



そーか…
そういや同じバイトだったんだっけ…
忙しそうだな…
どちゃっ
はい！お久しぶりです
えーと
あれ…？
ジー
確か卒業式の時――…
くるん
仁科…
あの人の事はどうでもいいから渚呼んでくれ
ふー
そ それじゃ少々お待ちくださいね〜〜っ
ガヤ
ガヤ
しかし…
どうだ完璧な変装だったろ
完璧にバレバレだったぞあんた…
ちら
ちら
冷静になって見ると…
この制服は本当に…これは…


お客様 お待たせしました お席へ案内 いたします
え… 朋也くん？
ドキッ
あ…
よ… よう 渚
え…でも お仕事は…？
たたまたま 昼で終わって 時間が空いたんだ
急だったから 突然来る事に なっちまったけど… 悪いな


そ
そうでしたか…
急だったので
ビックリして
しまいました…
かぁぁぁっ
き…
気まずい…
ジ〜っ…
…ていうか
ヤバいだろ！
その制服…!!
なんかすっげえ
ヒラヒラしてるし
胸元とか…ああ…
変な奴に
目エつけられたり
でもしたら…！
くら〜
見れば見るほど
かわいいぜ 渚…
はっ
あっ
席へ案内
しないと…！
えと
朋也くん
おひとり様
でしょうかっ
いや
ふたり
えっ


……？
お友達ですか？
!?
ペこ
それでは ご注文が決まりましたら お呼びください
ほらな バレなかっただろ
へっ ちょろいもんだぜ
俺の嫁…
ああ… 忘れてたよ あいつがアホの子だって事…
――で
この後はどうするつもりなんだ？ オッサン
おう それだ よく聞けよ
とりあえず 渚をここへ 呼ぶだろ



でてめぇが渚の気を引くような話をする
そのスキをついて俺がコイツで激写するって寸法だ！
すげーてきとうじゃん…
そんな上手くいくかね…
バカやるんだよ！写真やんねーぞてめぇ
ザワ
ザワ
うーん…
おい…早く呼べよ
ちょっと待てよ…なかなかこっちに来ないんだよ
恥ずかしがってるんじゃないかアレ


気のせいか？
なんか渚の事見てる男が多くねぇ…？
バカめ…俺の嫁だぞてめぇら…
おい小僧 見ろよ あの席の野郎ども…
全員で渚の事チェックしてやがるぜ…
ふ…ああ
フッ…そいつは俺の娘だぜ てめぇら…
フフフ
ハハハ
全くだ
馬鹿ふたり
すいませーん
あ はい
ご注文どうぞ


オレ
コーヒー
ピッ
チキンドリアと
ドリンク
アイスティー
ひとつね
はいっ
——それからさ
バイト終わったら
オレらと飯でも
食いに行こうよ
ワッ
——!!
タ
えっと
すみません
終わったら
まっすぐ
帰らないと
いけませんので…
またまたー
ちょっとくらい
いいでしょ?
そうそう
オレたち
オゴるからさ


本当にすみません…
え——そんなにお家厳しいの〜?
ていうかアレだべ?
お前とじゃ嫌って事じゃねーの?
え——
マジかよ〜
ぬ
わりぃなこっちが先約なんだ
な
なんだこいつら…っ
ああん?
何か言ったかクソガキ共
……っ!!



ザワ
ザワ
お・おい
チッ
どけよっ
やけに物分かりがいいじゃねーか
ボソッ
ガッ
ドッ
カカッ
ガッ
キャーーッ
おっとワリぃな足が長くてよ
てめ…っ
朋也くん…っ!!

CLANNAD

-クラナド-

オフィシャルコミック


ザワ…
ザワ…
…てめえ
やりやがったなあ！
はっ
あー
悪ぃ 悪ぃ
足が長くてよ
オッサン…
手は出すなと
言ったろ…！
足もダメだって
何
言ってんだ
あのガキが勝手に
すっ転んだんだよ
てめえも見てたろ
ダンッ
…んのやろっ!!


朋也くん…っ!!
うおおおおお!?
ガシャーー!!
さっ
ザワ
ザワ
あ、
あ… あの 大丈夫ですか?
おい… しっかりしろ
…あんだよ
今のは よけたら コイツが勝手に自爆しやがったんだろ
あの～～～……
お客様… ちょっと よろしい でしょうか…
え
ゴゴゴゴゴ…



第31回
～変わりゆくもの～


rnesto Host
IN
なんでこんな事に…
お客様…少々お時間頂けますか？
いえ…少し確認したい事がありますので…
…そもそも悪いのはナンパしてたあいつらじゃん
すげー怒ってたな
面倒臭えからあとは任せたぜっ
バイビー☆
なっ
オッサンはあっさり逃げちまうし…
ハァ…
俺も逃げるか…？



お待たせしてすみません
そういうわけにはいかない
あ…いえ
ここは渚の職場なんだ
わたくし店長の土方と申します
わざわざお時間とらせてしまってすみません
いえこちらこそ忙しい中すいません…
…つか 本当にご迷惑かけてすいません…!!
うおぉおぉおぉお…
ドキ
ドキ
胃が痛い…
そんなにかしこまらないでください
話は岡崎くんから聞きましたから…
…岡崎くん
?
ああ…岡崎渚くんです少し ややこしかったですね
はっはっは
ドキ
ドキ
ああ…


…そっか 岡崎くんって 呼ばれてるのか…
変な感じだな
かぁ…
なんでも危ない所を 助けてくださったとか…
事情も知らず キツイ言い方を してしまって 申し訳 ありませんでした
ペこ
いえっ そんな…
こちらこそ 騒ぎを 起こしたのは 事実ですし…
…?
じっ。
あ 失礼
いえ 岡崎くんの事を 最初に聞いた時 新卒で既婚者と いうのに とても 驚いてしまって…
あ…はい
なんでも 身体が 少し弱いと 聞いてますが…
あ そうなんです 今年の頭も しばらく体調 崩してて…
あいつ ちゃんと仕事 できてますか…?
それはもう!
正直 普段の 働きぶりを見ると そんな事 信じられないですよ



むしろ 他の人より 一生懸命なほどで… 本当に岡崎くんには助けられてます
そうですか…
…実はですね
以前にも今回と似たような事があったんです
でも彼女はトラブルを起こす事なく うまく やり過ごしていましたよ
え!?
トラブルを起こす事なく…
いや… ほんとにスイマセン…
ムダ骨だったか。。
あ いえ… どうか気になさらず…
えーと…
ですから 見た目以上に… というと失礼ですね
思った以上に利発な子だと思いますよ
はあ…
えっと
それならいいんですけど…
―――…


…ですから 心配なさらずとも 大丈夫ですよ 岡崎さん
――あ…
…それに わたくし こう見えても 武道の心得が ありますので
ああ はいっ 安心しましたっ
そうか…
騒ぎを起こした事で てっきり 怒られると 思っていたけど…
この人は それを 俺に 伝えたかったんだ
――あのっ
あいつの事… よろしく お願いします
…いい人だ
もう 心配はいらない――…


——え
店長がそう言ってたんですか？
ああ すごくお前の事買ってたぞ
よかったな 渚
いえ… そんな
でも今日は本当に色々あってびっくりでした
あ——…
いや… ほんと悪かったよ 騒ぎ起こしてさ…
べたっ
いえ 朋也くん わたしの事 助けてくれて 嬉しかったです
あ


…そういえば お友達の方に お礼 言いそびれ ました…
残念です
いつでも 言えるぞ お前
…？
いや… 俺から 伝えとくよ…
——と そうそう
今日みたいな事 よくあんのか？ 気をつけろよ お前 かわいいんだから
えっ。
そんな事 ないです… たまたまですっ
たまたまって… 現に今日 声かけられてたじゃん…
あれは… きっと わたしが お腹すいてそうに 見えたんですっ
ですから別に かわいいとかじゃ ないと思います…
ハァァァ…
またお前は そんな 言い方して…
回想
はっ
あ…っ
ずいっ
…渚 かわいいよな？
かあぁぁ。。
あ
えっと…
はい…


〜〜〜〜〜っっ
くはー！
いい…!!
ナルシスト渚最高――…!!
…でも周りの人の方がかわいいです…
ポッ…
へ？
…そうですっ
わたしより仁科さんや周りの人たちの方がずっとかわいいですっ
チャラララチャッチャッチャー!!
渚は自身をひかえめに言う事を修得した!!
い…今の禁止…っ!!
禁止じゃないです
そうする理由がないです
ああ…さらばナルシスト渚…
…でも元々はわたしに自信を付けさせるために言ってくれていたんですよね


——ああ…
そうだったな
コホン
あの頃のお前
本当に自分に
自信のない奴
だったから…
…でも
今はもう
その必要も
ない…か
あんだけ
店長も誉めてたし
頑張ったよ お前
えへへ…
もっと
もっと
頑張って
朋也くんに
似合う女の子に
なりたいです
ドキ
え…
いや…
渚は頑張ってるよ
俺より…
いえっ
朋也くんの方が
ずっと頑張ってます
頑張ってる姿
とても素敵で
カッコイイ
ですし…
お前だって
かわいい
だろ…



――…
あ…
そうですか…
――なんか…
いい雰囲気…
!
ドキ
ちゅうっ



あ…
あの
かぁっ
かぁっ
えっと…
なんだか朋也くんの顔見てたらキスしたくなって…
キスしてしまいましたっ
ぽかん
えっと…
もしかして嬉しくなかったでしょうか…
ぷぅーっ
くくくっ
おかしい…かわいすぎる!!
渚が…っ自分から…っ!
恥ずかしいクセに平気なフリして…あんな真っ赤なのにっ
萌死
あの…朋也くん…っ



嬉しくなかったですか…？
そんなに嬉しかったですかよかったです…
ああ…なんなら もう1回してほしいくらいだ
ボッ
はぁ、
い――や嬉しかった
もう このまま死んでもいいやってくらい
あ…
あ
まぁ…無理しなくてもいいけどさ…
い… いえっ もう一回しますっ
ん…


俺のいない所でも
もうきっと渚は
立ち止まったりしない
さっきまでの楽しい気分は消えて
それを素直に喜べない自分がいた
理由はわかっている
昼間…あんなのを見たせいだ…
IN


…あそこには空き地があった
毎日見てた場所なんだ
ショックだった
けど それはもうない…
思い出が上書きされて
それは誰からも
忘れ去られていく
変わるとは
そういう事なんだ
この学校は
好きですか？
でも
何もかも
変わらずに
いられないです
うれしい事とか
楽しい事とか
ぜんぶ
それでも この場所が
好きでいられますか？
…俺は——
好きで
いられるだろうか


ドサッ
これ見たか？
いえ…
何が載ってたんですか？
今度新しい道路ができるって話だ
新しい道路…？
ピク
ああ
幹線道路ができるんだ
ずっと延期してたがやっと着工するらしい
来期から基礎工事が始まるんだとさ
工期はいつ頃なんですか…？
再来年の春開通予定だそうだ
まだ先の話だな
うちにもいくつか仕事が入ってくるぞ
忙しくなるな


――……
――そういえば今日聞いた話なんですけど
うん？
高校に新しい校舎が建つそうです
え…
今月から工事が始まっているって仁科さんが言ってました
…新しい校舎って古い校舎はどうなるんだよ…
旧校舎は取り壊されるそうです



2年後　入学する生徒はぴかぴかの校舎で授業できます
とてもいいです
ぐ〜〜〜
…いいわけあるかっ!!
…あ…
そんなつもりじゃなかったんだ…
——ごめん
いえ…


あの…
どうして怒ったのか教えてほしいです
違う…怒ったんじゃない
…動揺したんだ
…動揺…？
だって旧校舎はさ…演劇部の部室があって…
そこでお前に告白して…
それで…
お前と過ごした思い出の場所なんだ
…違う そんなのはただの象徴でしかない
でも この不安をどう言えばいいかわからなかった
あ…そうです
わかります 朋也くんの気持ち
ふたりの思い出の場所なのに…
軽率な言い方してすみませんでした…


いや…謝らなくてもいいんだ…
いえ…わたしも悪かったと思いますから…
――…
…俺さ
きっと疲れてるんだよ
色んな事に神経質になり過ぎてる…
朋也くん…
――ごめん 飯冷めちまったな
もぐ…
カチャ
でも…
冷めても渚の作る飯は美味いから


だから好きだよ 俺
はい…
——胸が痛い
サァァァァ
おやすみなさい
ああ…おやすみ
言い知れぬ不安が胸をしめつけていた
俺が共に過ごしたものはすべて思い出となり
見たこともない新しい世界ができあがっていく
何もかも変わらずにいられず
何もかも変わり続けていく
はぁ…


そして
その中には
渚も
含まれているんだ
朋也くん
……
起こしちまったか？
ごめんな
ぎゅ…
──遠くなる
渚…
こんなにも
近くにいるのに
少しずつ
遠くなっていく



…なぁ 渚
俺 お前の事 大好きだよ
だから――…
その先の言葉は出ない
…?
朋也くん
わたしも 朋也くんの事 大好きです
俺を置いて 周りのすべてが 変わってしまう 気がしていた
…渚
――ん…


——2年前
俺はこの町が嫌いだった
どこにも行けない自分に苛立って
すべてが変わる事を望んでいた
——時間が経って
俺は大切なものを見つけた
そして それを失う事を恐れている


変わらないでいてほしい
何もかも
変わってしまったら
笑えない
ん…
朋也くん…っ
この場所が
好きで
いられない
だから
お願いだ
ずっと
そのままで
俺の隣に
いてくれ——…


チチチ・・・
朋也くん…
朋也くん
朝です
ーーん…
起きましたか？
おはようございます
朋也くん
えへへ



――渚…
…おはよ
はい
朝ごはんの仕度してきますね
いてくれた渚
――ああ
この温かな日々を
どうかいつまでも
俺にください


岡崎！
あと どのくらい かかる？
そうすね…
片付け含めて 15～20分ってとこです
15分したら次に行くぞ
とっとと終わらせろ
げ…
岡崎くん
はいっ



いつしか俺は
その事さえも
忘れていく



ふう…
うぷ…
ジャー
変わらないもの
なんてなくて
変わり続けていく
日常の中に
俺たちはいた


第32回
～息吹～


ふーーっ
暑いな 今日は…
まだ6月なのに もう 夏みたいです
ったく… 勘弁してくれよな
まぁ 俺は 慣れてるし いいけどさ…
これからの季節 考えると地獄だっての… くそ暑い中 長袖着て 仕事かよ…
クスクス
あちぃんだよ アスファルトがよっ
渚 最近 具合悪そうに してたろ…
夏バテとか 気をつけろよな
あ…


はい…気をつけます
ふぃっ
たっ
……………？
朋也くんっ行きましょう
ああ…うん
こんにちはー
ちーす
おう来たな
？？
例のヤツ…
できてるぜ小僧…
ボッ
…なぁ渚
先上がっといてくれよ
俺ちょっとオッサンと話があるから
え？そうなんですか？


ホラ 渚も 早苗さんに 相談したい事が あるとか言ってたろ
あれ 先に してきたら どうだ?
あっ
別に後でも よかったですけど
そうですね それじゃ先に 済ませてきます
パタン…
じりり…
──で オッサン… 例のって──
ドキドキ
ここだ
早速 見るか?
見てえか?
見て みるか?
見てえよな?
見て みましょうか?
イラッ
ひらひら
いいから早く 見せろよ…
ぺら
ド



おおおおおっ
うわ…すげえ…！
そうだろそうだろっ
何しろやっとの思いで激写したやつだからな苦労したぜ…
ああ…
あの後わざわざ写真を撮り直しに行ったあんたには恐れ入るよ…
騒ぎ起こしといてよく行ったな
だろ!? ほれ この写真なんかすげえアングルだろ
うわ…！
アンタこんなのどうやって撮ったんだよ…
あと これなんかもイイだろっ
う…胸が…!?
…あのさ オッサン…
あん？
ジ
——これ…


や…焼き増ししてください…
か…っ 身体が勝手に…!!
――ちっ
仕方ねえな てめぇはよ
ほらよ
本当は俺ひとり楽しもうと思ったんだが やるよ 小僧
え?! いいのか?
んなあっさり…
てめぇも色々苦労してるみたいだしな…
どうせまだ手エ出せてねぇんだろ?
だからやるよ 武士の情けって奴だ
ああ サンキュ…!
なっ
ドキ ドキ
言えねぇ…!!
ガタッ
バタ バタ バタ…
ん?


ジャーーーッ
たた
どうしたんですかっ
あ…朋也さん
はぁ…
…う…
な…っ渚!?
ちょっと気分が悪くなってしまったみたいです
だ…大丈夫なんすか!?
そうだ俺布団しいてきますよ!
あでもこれは――…
のそっ
なんだ気分が悪いのか
さてはアレだなとうとう子供でもできたかっ
なーんてな
はっはっは



ははは…
はい
できちゃったみたいですね
…あ？
何ができたって？
ですから赤ちゃんです
え？俺の子？
え…
違いますよ秋生さん
渚と朋也さんふたりの子供です
生理も止まってますし多分間違いないでしょう
ええ？
え
はっ


…そう言われてみれば…
じゃあ…本当に…？
俺たちの子供が——!?
朋也さんおめでとうございます
ちょっと
待てええええっ!!!
できちまったってやる事ヤってねぇとできるわきゃねぇだろうがっ
コイツはまだ渚に手ェ出せずにいるってのに
エッチもせずにどうやって子供ができんだよっ!!
それとも何か!?コウノトリが運んでくるってのか!?
全く人騒がせにもほどがあるぜ…!
いや…
なんつー事言い出すんだこの人は…っ!
だらだら
あ…お父さん…
あんだよっ


……その しちゃってます…
あ？
あの…
朋也くんと エッチな事 しちゃってます…
エッチな事 しちゃってます…
しちゃってます…
ビクッ
め…
めでてえじゃ ねえかよ…
――小僧…
え…
…これは 祝ってくれてる のか…？


後日
とりあえずそーゆーのは言うな・
渚は隣町の病院で検査をした
結果は思った通り——
2ヶ月でした
…そうか
——で産むんだよな？
もちろんですっ朋也くんとの子です
絶対に産みたいです
渚は身体が弱い
でもな…大変だぞ
オッサンの心配が痛いほどわかる
それでもわたしは頑張りたいです



俺が守るよ
渚の事守るから
それでも
既に息づいているんだ
渚に宿った新しい命は
何もかも、この手で守ってやりたい
…しっかりやれよ 甲斐性なしっ
──ちっ


夕焼けの中
手をつないで帰る
夢のような一面の赤
…俺たちに
子供ができるんだ…
現実感がまるでない
クスッ
——あれは
いつの頃だったか
てめえも
子供ができたら
こうならぁ
あ でも本当に
朋也くんも
そうなりそうです
はあ？
きっと
子供に優しい
かっこいいお父さんです
おいおい…
それじゃあ渚は
子供に優しい
お母さんですねっ
あ、わたしも
そうなって
しまいそうです
そうなれば
素敵ですっ


あの頃 ただの冗談で 話していた事が 今 現実になっている
プッ
2年前は あんな事 言ってたのにな…
朋也くん？
いや… 笑えるよな
──ああ
だからさっき 渚もこうして 笑っていたのか
俺たちは若いし きっとこれから 大変だろう
──それでも
やっぱり 幸せなんだ 俺たちは


おはよーさん
おはようございます
岡崎
聞いたぞ おめでとう
…え？
子供だよ子供！
なんでもう知ってるんだろう…
あ ありがとうございます
でもまだ全然自覚とかないですけど…
バッ
産まれてくれば嫌でも自覚してくる事になるさ
——そう
人は誰しもひとりでは生きてゆけないという事…



誰かが誰かを支えて生きてゆく事
その始まりを岡崎、
お前はその目で――……
あ 遅れるっすよ
人は誰もがひとりでは生きてゆけないという事…誰かが誰かを――
〜〜〜(略)〜〜〜
お前はその目で見つめていくんだ…
ブロロロロロロ…
はぁ
芳野さん…
――…
ちょうどいい ちょっと寄り道するぞ
え?


そんなに時間はかからないから安心しろ
それにどうせ通る道だ
はぁ…珍しいっすね芳野さんがそういう事言うの
車を走らせる事 数分
町の外れの方にその場所はあった
着いたぞ岡崎
え ここ…？
——あ…


ドクン…
工事現場…
ここは!…
岡崎はここに何ができるか知っているか?
いえ…
病院だ
この町に今までなかったでかい病院ができる
工事



病院…
ふぅっ
とは言っても
この感じだと少なくともあと3年はかかると思うがな…
変わり続ける町
忘れていた胸の痛みが襲ってくる
芳野さん…
どうして俺をこの場所に——…?
ああ…
…確か公子さんの妹さんが入院してるんだっけ…
俺が今隣町から通って来てるのは知ってるな?
あ…はい
それはこの町に大きい病院がないからだ
ん?
今何か一瞬思い出しかけたような…
?
だから3年後だ


3年後 俺はこの町に 戻ってくる
この町で
ここで この町で愛する人と 支え合って 生きていくために
そして 岡崎 お前もだ
!
俺は 一足先に お前のそういう姿を 見られるのを 期待している
は…はいっ
変わる町
その先で 幸せに なる人がいる
そんな 当たり前の事を ふいに 感じながら
芳野さんが この町にこだわる理由を 知りたいと思った


朋也くん
朋也くんっ
エコーって知ってますか？
今日は渚の初めての検診日だつた
…え？ エコ？
エコーですっ
なんとですね お腹の中の赤ちゃんが見られる機械なんですっ
ええ!? もう見られるのか…っ!?
あ でも
まだ卵みたいな感じでしたけど
こんなの
これからどんどん大きくなるそうです
他にも問診とか血圧をはかったり…
へぇー
ほ…
そうそう それで
お医者さんから婦人病とかのトラブルもないし
元気な赤ちゃんが産めるって言ってもらえました
そっか…


じゃ 今のとこ特に問題はないって事か…
医者が言うなら安心だな
はい！
…あ
なんだよ…隠す事ないだろ？
俺と渚ふたりの問題なんだからなこーゆーのはっ
全部話して共有しておく事が大事なんじゃないかっ!?
はっはい…っ
あ？
あ…いえなんでもないです…
じ 実はっ
…その格好が恥ずかしかったんです…
格好？
朋也くんは内診台って見た事ありますか…？
いや…ねえけど
なんていうか…歯医者さんのイスに片足ずつ乗せるとこが付いた感じのなんです
その上でスカートと下着全部脱いで…
あ…足を広げられるんです…
!?
すごく恥ずかしかったです…
…ちなみにどのくらい…？


そ…っ
そんな事まで言うんですかっ⁉
いや…まあ嫌ならいいけど…
でもなんだか言わなきゃいけないような気がしてきましたっ
どっちだよ…
すうっ
とりあえず…
とっ…
朋也くんより開かれましたっ
ぽん
朋也くんより開かれました
朋也くんより開かれました
朋也くんより開かれました…
それは…
くれぐれもオッサンや早苗さんに言わないように
言えるわけないですっ
いやすげー言いそうだから


ピピピピピ
――う…
カチ☆
くあ…
むく…
おはよう ございます…
おはよう 起きてたのか 渚
具合は？
――あ…
…すみません 今日も 起きられそうに ありません…
そっか…
渚のつわりは 日に日に 酷くなった



ごめんなさいです…
謝るなって共同作業だって言ったろ?
…と一応聞くけど朝ごはんは食べられるか?
いえ…ちょっと無理そうです…
わかった
つわりって本当酷いもんなんだな…
なんとかできればいいのに
なぁ
すっぱいものとかどうなんだ?
欲しくなるって言うじゃん
あ わたしは柑橘系はちょっと…
余計に気分が悪くなってしまうんです
つわりは個人差がありますので…
先生が言うにはこれといった対処法がないそうなんです
マジか…
うーん…
本
BO


俺も自分で色々調べてみた
妊娠・出産 Q&A
調べてみて わかつたのは やつぱり食べる事が 一番いいという事だつた
つわりは 胃が空だと 酷くなる事が 多いので
朝が辛い人は 夜中に少しでも 食べておくと いいらしい
ベストセラー
本日入荷!
え――と つわり つわり…
パラ パラ
なるほど 夜中か…
ピピピピピピ
カチッ
渚…
時刻は 夜中2時
ん…
渚 起きてくれ


どうしたんですか？こんな時間に…
気分は悪くないか？
起きてるか？
はい…今は大丈夫です
よかった
ならこれひとつでも食べられるか？
ぱち
あ…
俺はひとくちサイズの小さなおにぎりをいくつか作った
これ…？
夜中にさ少しでも食べるといいって書いてあったから
まぁ見た目はあんまよくないけどさ
食べられるだけでいいから食べてくれ
――……
ありがとうです…
いただきます
無理しなくていいからさ
気分悪かったら時間ずらせばいいんだから


渚はおにぎりを3つ食べた
朝 全然食べられなかった事を考えると上出来だった
ピピピピピッ
次は4時
さつきの残りを今度はふたりで食べた
渚は5つも食べる事ができた
おにぎりおいしかったです
そう言って笑ってくれた


おい
岡崎 次の現場の事で――…
ぐぅ
――ま
休憩中くらい寝かせといてやるか
こいつも頑張ってるみたいだしな


…ん
歌？
耳に残る
心地よいメロディ
どこか懐かしい音を聞きながら



渚の夢を見ていたような気がした
…う…
朋也くん おはようございます
起きても平気なのか? 具合は…っ!?
はい 今日は気分悪くないです


つわりが治まるのは10～11週目
本に書いてあった通りだ…
――て事は安定期に入ったって事か……
ホーーッ
よかったな…渚！
渚に戻ったいつもの笑顔
はいっ
それを守るためならなんだってできると思った



第33回

~LOVE SONG~


何イ!?
自宅出産だとぉぉおおっ!!?
TIME
60
RECORD
0'56"765
TOTAL
2'50"765
キキキキィ
キキ〜〜ッ
よしっ!抜けた!!
おい見たか!?今のドリフト!
…とりあえずゲームやめてくんねーか オッサン
話は少しさかのぼる



渚が妊娠して3ケ月……
つわりも治まり落ち着いた頃
ちっ 仕方ねぇないいとこだったのによ…
…で何だ
聞いてなかったのかよ…
渚からこんな提案があつた
自宅出産をしようと思っています
…え?
——それってここで産むって事?
そうです
そりゃそうか… 自宅出産だもんな
そーかそーか…
病院に自宅出産した方の手記が貼ってあってそれを読んだんです
旦那さんと両親先に生まれたお兄ちゃんに見守られて
ずっと手を握っていてもらったと書いてありました



自分の部屋で産まれた赤ちゃんを旦那さんが産湯につけて…
そしてその場で赤ちゃんを抱きしめていられるそうです
すごくいいなって思いました
それに頑張るって決めたこの部屋でこれまで頑張ってこれましたから…
朋也くんはどう思いますか?
あ…ああ
そうだなあ…
う～ん
病院じゃないってのが不安ではあるけど…
でも——
…俺は
渚がそうしたいって思うならそうさせてやりたい



……それから
この手で子供を産湯につけてやりたいって思う…
──はいっ
…でも
ちゃんと医者と相談してからな…?
不安だ…
はいっ
次の検診の時話してきますっ
うーん
つかこんな狭い部屋で大丈夫なのか、
──とまあ
そんなわけで
真面目に聞いてくれよオッサン
あと少しでレコード更新だったのによ
自宅出産したいんだよ


俺と渚
ふたりで話し合って
決めたんだ
自宅出産だと…？
そりゃーなんだ？
金がねえのか
罰ゲームか？
宗教上の理由か？
それともオモシロか？
全部違うっ!!
じゃあアレだ
俺と早苗が渚を
はさんでイキむんだ
さて どこから
産まれてくる
でしょう？
オモシロ出産のネタはいいから!!
お父さんっ
わたしたち
真剣ですっ！
よく言った
嫁よ…！
ん――
でもなあ…
私はいいと
思いますよ
秋生さん


出産の時
母体がリラックスできる環境なのは大事な事なんです
それに病院だとすぐに赤ちゃんと引き離されてしまう事も多くて
赤ちゃんをすぐ抱いてあげられない事もありますから
私も渚を抱く事ができたのは出産後しばらくしてからだったんですよ
そうなのか？
はい そうききました
…て事はなんだ
最初に渚を抱いたのは俺じゃなかったのか？
はい
一番は病院の方ですね
うおおおっ
なんてこった!!!
俺が一番だと思ってたのにようっっ!!
くそーっ
ダマされたあぁっっ
おい…
話続けていいか…？


――で
医者はなんて?
はい 今の状態なら大丈夫だって言ってもらえました
これ 助産士さんのパンフです
だ そうですよ 秋生さんっ
ちっ
…わかったよ
この際でかいベットでも買っててめえも一緒にイキんだらどうだ
そのネタももういいっての!!
じっ
冗談だよ バカ
抱いてやるといい
その手でよ


この手で――……
――……
おい
ぱし
たっ
ボーッとしてたぞ お前
あ…芳野さん
あの……実は――……
ん？


ふうん
自宅出産か
そいつはいいな
はあ…
そう思いますか
なんだ嫌なのか
いやそんなわけ…！
ただ責任重大だなと思って
父親になるんだ当然だろ
お前はそれを自覚する事になる
自覚っすか…
ああ…
人はひとりでは生きてゆけない…
誰かが誰かを支えて生きてゆく事——…
うわあ
あの…それ前にも聞いたっす


おい
人の話は
最後まで聞け
その始まりをな
岡崎
お前はその手で
我が子に伝えて
いくんだよ
プレッシャー
たな…
芳野さんめ
――この手で
伝えていく…か
…そしてそれが
お前の
父親としての
最初の仕事
ってわけだ
よかったじゃないか
…はぁ
超重要な
感じっす…
お送りした
ナンバーは××××


ブロロロ
さて 先日の末に行われたイベントですが みなさん来ていただけ
ハハハ
当番組リスナーの方は会 お目当ての物はゲットでき たでしょうか? 私はあの
ふと
――あ
そういえば こないだの曲…
アレ… 一体なんだっけ…?
すげー聞き覚えある気がすんだけど なぁ…
気になる!
うーん
あの…芳野さん…
こないだ なんか歌ってた 曲って…
あれ なんですっけ
なんだ
…お前 そういう事よりも 気にする事 あるだろ!!
クワッ
ドキ ドキ
…なんて… 聞けねーよな やっぱり…
では PN・筋力革命さん からのリクエストで この曲――…
――あ…



…すっかり忘れてたな…
…こ…これだ──っっ
ドキドキ
ぐっ
偶然にしちゃ出来すぎだろ……っ!!
ヒビッった…
ドキ
ドキ
俺…学生ん時好きだったんだよなこの曲…
プッ
芳野さぁん!!!
なんでそんな事するんですか……っ!!
ひどいじゃないですか
なんだ聞いてたのか
聞いてましたよっ俺 この曲すげー好きだったんですから!
…そうなのか



そうっすよ！
…正直さっきまで忘れてましたけど学生の頃ずっとテープで聞いてて…
多分 今でもそらで歌えると思います！
あの…ラジオつけていいっすか？
……ああ
そろ…
――しまった…
もしかしてこういうの嫌いだったかな芳野さん…
ピッ
――お送りしている曲は
ヨシノユウスケで××××××――
古くても色あせない名曲ですよね――……
芳野裕介…？



俺はとっさに学生時代を思い出していた
おい 春原 これ誰の曲だ？
ん？
何？気に入ったの？
ヨシノって人のだよ
ふーーん
芽衣が好きでさ こないだテープ送られてきたんだ
へぇ…
え？
…あげるよ これ
気に入ったんでしょ？
…いいのか？
僕はまた聞きたくなったら芽衣にもらうよ
それに僕はボンバヘッの方が圧倒的に好きだしねっ！
あ そっち聞こうよっ
ボンバヘッ
やっぱサイコーだよねっ
もらった曲を何度も聞いた
何度も聞くうち メロディや歌詞が大好きになってたんだ


…でも
まさか…それが
芳野さんだったなんて…
…芳野さん…
!
キキッ
ふうっ
岡崎
ちょっとあそこでコーヒー買ってこい
は…?
…長いからな
この話は
ミーン
ミーン


コーヒーっす
あぁ…悪いな
ミー
ミー
カシュッ
…あの…
俺ホントにさっきの曲ずっと聞いてて…
――昔話をしてやろう
とあるロック少年の話だ
――なんで
なんで芳野さんみたいな人が こんな所にいるんですか…!?
……
そう言うと芳野さんは一息ついて話し始めた


…ずっと昔
この町には
出来の悪い
少年がいた
おい！
聞いてるのかそこー！
芳野!!
またお前かっ！
親がいない少年は
悪い事も覚え
落ちこぼれてた
毎日を
好き勝手やって
生きていた
どうしたんだ？
このギター
ああ
センパイに
もらった
使わねーから
お前にやるって
お前も一緒に
やらねえか？
そんな少年は
13の時
音楽と出会う


時代はちょうど
バンドブーム
少年はどんどん
音楽に
のめり込んでいった
他人のライブを
乗っ取ったり
ムチャをやっても
許された
それが
ロックだった
落ちこぼれの少年は
ロックという
枠の中なら
生きる事ができた
好き勝手
やってきた少年が
音楽にすがって
生きていくようになるまで
そう時間はかからなかった


少年は高校3年になった
相変わらず音楽漬けの日々
そこでひとりの女性と出会う
パチ
パチ
パチ
すごくいい曲ですねっ
女性はどこか抜けた感じの新任の教師だった



その時歌っていた 青臭いラブソングを 好きだと言ってくれ
上手だと 言ってくれた
すごいね 先生感動 しちゃいました
…こんなの 当たり前
俺はプロに なるんだから
そうなんだ
ずっと 続けていれば 叶うから 諦めないでね
少年の夢を 笑わないで 聞いてくれたのは その人だけだった
その人だけは 少年の目にも 違って見えた
少年は恋に 落ちてたんだ その人に



―……
先生…
…卒業おめでとう
寂しくなるね…
あ
話って何？
…俺
絶対
プロになって
有名になるから
そしたら先生
俺と
付き合って
ください


――はい
――っ
?
しゃあ――っ!!
がばっ
きゃっ
――少年は嬉しかった
すがるだけだった音楽が目標になったからだ
そして卒業して少年は町を離れて上京したんだ
ふう
…退屈か?
いえ…! 早く続きが聞きたいっす
…そんな急いで聞くようないい話じゃないがな…


上京してすぐに少年はオーディションを受けた
優勝こそしなかったものの審査員の目にとまってそれがそのままデビューへと繋った
…あっけない…
けれど夢が叶って嬉しかった
そこからはただがむしゃらな日々
ワアアァ
レコーディングしては新曲を出しそれを聞いたファンが共感する
それを受けてテレビで歌えばさらに大きな力となった
歌は共感し人の生きる力になるその事を肌で感じていた
YO-SHI-NO! YO-SHI-NO!



歌は人々の助けとなる
少年は自分の生きる理由を見つけ歌い続けると誓った
けれど
何もかもうまくいったのはそれまでだった
…少年は歌が歌えなくなった
ピク
…ケガとか?
いや…きっかけはテレビの企画だったんだ
そこで少年は知ってしまった
本当に苦しい生活の人たちが自分の歌で救われてる事を


気がついた時には少年の歌は自分だけのものじゃなくなっていた
しかし彼にはわからなかった
どうして自分の曲が彼らの支えとなり得たのか…
バサッ
くそっ
彼は悩んだ
これからも自分は彼らのために歌っていかなければならないのに——…
多くの人が少年の歌に共感し支えとして救われようとしていた


それでも彼は歌う事を止めようとしなかった
自分の中の矛盾に気づいていても気づかないフリをして
吐き気と戦いながら歌った
分からない
もちろんそんな状態が長く続くわけがない
ガチャ
芳野祐介逮捕
芳野祐介大麻所持で逮捕
──結果
彼は薬に手を出し罪に問われた


薬が抜け精神を洗い流され罪をつぐなったとき…
もう彼の居場所はどこにもなかった
顔だってもう知らない奴はいない
すがるものもなくした彼は
あとはもう堕ちるとこまで堕ちるだけだった
何もないから生きるため罪を重ね
生きる事もやめたくなって…
そこで初めて彼は田舎に帰りたいと思ったんだ
ブロロロ
プシュー
あの楽しかった日々へと…



ボロボロの状態で
少しの荷物と
小銭を持って
町へ向かった
バスを降りて
歩き出す
――すぐ
目の前に
人がいた
――先生…
――なんて
むごい事を
するんだろう
夢を誓った
人を前に
こんな姿をさらして…
俺はそこまで
苦しめられないと
いけないのか…!?
この町は
俺を憎んで
いるのか――…!?
ドクン
ドクン


——まだ
音楽は続けてる？
——この町は優しかった
何ひとつ変わっていなかった
…最初からその人のためだけの歌を歌えばよかったんだ
好きな人のそばにいればよかった
少年はやっとそれに気づく事ができたんだ


——…
芳野さんの表情は見えなかった
…その少年は今も歌を歌ってるんですか？
…あぁ
誰のための歌かちゃんと見つけたからな
そうですか
——ならよかった
これからもずっとそうして伝え続けていくんだろう



大切な人へ
あの時歌ったというラブソング片手に
それが少しうらやましい
…腹減ったな
…あ
帰るか
はいっ
…ただいまー
バタン
おかえりなさいです朋也くん

CLANNAD
-クラナド-
オフィシャルコミック

第34回
～くるくる～




ガチャ
ただいまーー
ふうーー
お帰りなさい朋也さん
ん？音楽聞いてたのか？
はいっ芳野さんの曲です


こんなすてきな曲知ってたのに黙ってたなんて
ずるいです朋也くん
いや黙ってたっつーか俺もこないだ思い出したんだし
ていうか渚だんご以外興味ないかと思ってさ
えへへ
いい曲は色あせないですから
—まさか
芳野さんがものすごく売れてたロック歌手だったなんて…
それ聞いてすぐCD屋まわって探したんだよな…
…中古でも見つかってよかったよ
芳野さんなんて言ってましたか？
ん？
あ—…
あの…芳野さん


あの…俺またCD買い直しました
改めていい曲だなって思って…
本当っす一緒に聞いてた彼女もいいって言ってましたよっ
…やっぱり話すんじゃなかったかもな…
え――!!?
…多分照れてた
照れてましたかっ
でもその後にさ
…だが
そういう風に思ってる奴がまだいるなら…
――俺は何か返していかなくてはならないな…
――ってさ


…もっと芳野さんの歌が聞けるといいですね
ああ もったいないよな本当
好きなら我慢しないで歌えばいいのにさ
決めましたっ わたし陰ながら応援してます！ずっと聞いてますっ
むんっ
そりゃハデな胎教だな…
…お腹の子もロック好きになったりするでしょうか？
いや…まぁ
それはそれで楽しそうだけどさ
あ
そういえば今度お母さんの知り合いの助産婦さんを紹介してもらえる事になりました
へぇ 早苗さんの？
はい 隣町から来てもらえるそうです
助産婦といってもおばあちゃんじゃなく若い方もいるそうなんですよ
ちょっと楽しみです
へぇ――
そしてその日はすぐに訪れた


こんにちは 八木と申します
これから お母さんの 出産までの間 よろしくお願いします
こちらこそ お世話になります よろしくお願いします
あっ とりあえず 上がってください
はい お邪魔しますね
つわりや体重はどうですか?
あ はい 今の所――……
…俺 どうすりゃいいんだろ…
―さん
お父さん
ドキ
…え?
何か聞いて おきたい事など ありますか?
あ…
そっか… 俺の事か…
その… こんな狭い部屋 でも大丈夫 なんですかね…?
あら


大丈夫 広さはあまり 関係ないんですよ
大切なのは お母さんが リラックスできる 場所なんです
妊娠中は いろいろ不安に なったり 身体的な影響も 出てきます
それを和らげて 安心して お産してもらうため 私たちがいるんです
あ… そう なんですかっ
赤ちゃんはこれから ゆっくり時間をかけて 大きくなります
来月くらいには きっと胎動も 始まりますよ
――はいっ


八木さんは今後こうして渚の様子を見に来てくれるらしい
なんか…思い出すな
渚の出産に向け多くの人々が動いている
それがなんだか嬉しかつた
——それでは今日はここで失礼しますね


ありがとうございましたっ
その日は簡単な話だけで終わった
…しかし助産婦は医療行為できないって知らなかったな
ふぅ
そうですね
定期検診はこれまで通り隣町まで行かないとです
結構大変じゃないか？
このくらい平気ですっ
そっか
それからの渚は毎日笑って過ごしていたと思う
あ
う…
母子手帳…あいつ大事な物だろうに…
…さては見てそのまま忘れてったな…
ガチャ
あ


あ
忘れものしちゃいました
ホラ
これだろ？
あっ…気づいてましたか朋也くん…
あんなとこに置いてりゃ誰だって気づくっつーの
俺ももう出ないといけないから気をつけろよな
以前まで感じていたプレッシャーはもうなかった
あるのはただ幸せと
これからの喜び


お疲れ様でーーす
岡崎くん すまないね せっかくの休日に…
いえ 仕事片づいてよかったっす
じゃ すみません お先失礼します
ミーン
ミーン
ジワワワワ
ふぅ…
昼過ぎか… 思ったより早く片づいたな
ヒュウッ
冷蔵庫 卵あったかな… 軽く買い物でもしてーー
うおっ!?
ーーって なんだ 帽子…?
すみません〜〜っ


それっ私のです――
え…宮沢？
たたっ
すみません風でとんでしまって…
ありがとうございましたっ
ふか
ぺこ
ぺこ
おい…宮沢だろ
え
そりゃこっちのセリフだっての
あっ岡崎さん!?こんな所で会うなんて偶然ですねっ
どうしたんですか？
ぽふっ



——墓参りか？
あ…はい
岡崎さんは行かれないんですか？
もうすぐお盆ですから
岡崎さんは？
ただの休日出勤だよ
そっか…そういう時期だったな
あ——俺んとこはそういうのないから
母親はもう死んでるけど
すみません…
あ？いや宮沢が謝る事じゃ…
——もうずっと前の事だからさ
俺だってほとんど覚えちゃいないし気にしてないって
なっ⁉



ずーん
あはは… すみません 気を使わせて しまって…
ホラ宮沢 それ 貸してみろよ
あっ
墓ってこの先 曲がったとこ だろ？ 荷物持ち してやるよ
え 本当ですか？
ああ 宮沢さえ 良けりゃ…だが
あは…
…じゃあ すみませんが お願いします
よしきた！


あ・・・
なんだ忘れものか？
いえ…
友達がこの辺で待ってる予定だったんですけど…
え？友達と待ち合わせてたのか？
はい ちょっと早く着いちゃったみたいですね
すぐ来ると思うので少し待ってください
おいおい… なら俺いない方がいいんじゃ――
ゆきねえ～
あ 来たみたいです
!?
ムァ～
待たせたなぁ… ゆきねえ…
何イイイイ!!?


みっ
宮沢…
こんにちは蛭子さん全然待ってませんよ
そうかァ…走ってきた甲斐があったっちゅうもんだぜぇ
蛭子さんは必ず約束の時間に来てくださいますね
お…おい 宮沢…
あははっ
いやそれツッコミ所多過ぎるだろ…
ギロッ
あ——ん？
なんじゃあコイツは…
ボキボキ…
ゆきねぇ…コイツに言い寄られてんのか？
沈めとくか？
なんだよ沈めるって
違いますよ蛭子さんっ
この方は私のお友達なんです
ああ？友達ィ⁉
…おうっ


くるっ
――ちっ
先に言えや…この野郎
ついて来いクソ野郎め
…てめえも行くのかよ…
ああ…一応…
――けっ
…なぁ宮沢 あの人って…
はいっ
あの人は蛭子さんと言って「千二百のかさぶたを持つ男」です
帰りたくなってきた…
つか友達って…
なんか弱みでも握られてんのか？
小声
あはは…そんな事ありませんよ
蛭子さんは口は悪いけど とっても優しい方です
つってもなぁ〜〜〜


そんなに変ですか？
ミーン
ミーン
いや…変っつーか
どういういきさつでそうなったのかが全く想像できない
私はただ…
自分がしてもらって嬉しいと思う事をしただけですよ
…そっか
そりゃ宮沢の才能だな…
たぶん
才能なんてないですよ
岡崎さんもきっとできますよっ
…俺？
はい！
優しくしてもらえたら誰だって嬉しいですから



その思いは巡り巡って自分の元へ返ってくるんです
絶対 なくなったりしないんです
思いはくるくる回っていくんですよー
ー……
なるほど…
そういうもんかもしれないな……
皆さんにもきっと伝わったと思います
はいっ
おーいっゆきねぇー
あ
…皆さん？


ふ…
やきねぇ―
わいわい
増えた…!!!
あ 皆さん すみません 先に行っててもらえますか?
ゆきねぇは?
ええー
脱力
私もすぐに行きますので っ
お前なぁ…
そもそも墓参りじゃなかったのかよ…
いえ お墓参りですよ 大好きだったんです 皆さんも
早く来いよー
はいっ
誰を?
私の兄です
──岡崎さん
…宮沢…


…黙っててすみません
私の兄は3年前に亡くなっているんです
…宮沢…
あでも今はもうだいぶ立ち直ってるんですよ 私
だから…
そういうんじゃないんです…
…ただ――
兄に紹介したかっただけなんです
私のお友達ですって
――…
…それならそうと言ってくれ…
すすみませんご迷惑でしたよね


ぽふ
あのな…
最初に言ってくれりゃ俺も心構えできただろって
ぐりぐり
きゃっ
…構わないさそんなの
くるくる回ってんだろ?
あ…
…って俺行っても大丈夫なんだろうか…
ドキドキドキ
ありがとうございます岡崎さん



――えっと…
あんたの妹はたくましく日々頑張ってるからな…
――宮沢は
本当は落ち込んでいたんだろう


…ゆきねぇ
大丈夫か？
——はいっ
そんな中でも笑えるのはきっと
周りの奴らのおかげなんだろうな…
——悪いな
最後までいられなくて
いえ…
本当に今日はありがとうございました


お酒とか飲んで行かれなくてよかったですか？
カメ
どんちゃん
常識的にあそこで飲む気にならんだろ…
いらん
オイにーちゃん
ガサ
びくっ
帰んだろぅ？酒持ってけよ酒!!
いや…飲まねーし
ゆきねぇと一体どういう関係かと思ったら ただの先輩だってなァ!
しかもてめぇ嫁までいるって…やるじゃねぇか オイ
ガハハハ
んじゃまたなっ宮沢!!
ぬう…!?
つれねぇ野郎だな——っ
ダッ
ははっ



巡り巡って
自分の元へ
返ってくるんです
――か…
ど…
どうしたんですか朋也くんっ？
ゼー ハー ゼー ハー
あ――…走って帰って来たからな
なんかドッと疲れた
ふー
お仕事そんなに大変だったんですか？
いろいろあってさ
ふうっ
ゴロッ…


クス
クス
ん――？
子供みたいです 朋也くん
え そうか？
…これじゃ 子供に 示しが つかねぇかな
大丈夫ですよ ちゃんと わかってますから
…そっか 一心同体 だもんな
はい 一心同体です
――あの 朋也くん
何？
この子の名前 考えませんか？


──名前…
…そうだな
よっ
そろそろ考えてもいいかもしれないな
はいっ
男の子か女の子かまだわからないのでふたつ考えないといけないですね
あ…そうかならふたつだな
うーん゛
──……
つっても急にはなかなか思い浮かばないな
じゃあ…朋也くんとわたしの名前から一文字ずつ入れるとかはどうでしょう…
いや俺はいいよ
俺からは岡崎って名字が付くだろうそれで充分
あそうでした
じゃあわたしから…



…でもわたしは
漢字一文字
ですから
姉妹みたいに
なってしまいますっ
あ…
う〜ん…
―…
渚とは
浜辺の事です
ああ
潮の
満ち引きする
場所です
ですから―…
「汐」というのは
どうでしょうか


うしお？
はい しおちゃんです
これなら男女 どちらでも 大丈夫です
きっと人生には いろんな事が あると思います
時には引いて 離れても また引き合うのが 潮です
時が経てば また満ちて そばに帰ってきます
――そうやって ずっと見守って いけます


——……
汐か……
うん いい名前だと思う
決定だな
わっ
本当ですかっ
しおちゃんですね 嬉しいですっ
しおちゃんっ
今日からしおちゃんですっ
でも汐って渚より大きいんじゃないか?
はい 海全体を意味するような言葉ですから
海みたいな大きい存在か…
なれるかな? そんな大きく優しくつつみ込めるような子に…
——なってほしいです



[CLANNADオフィシャルコミック⑥・完]

CLANNAD

-クラナド-

オフィシャルコミック

◎おまけまんが

問題児(たち)その後





うるさーーいっ！
ケンカ両成敗っ!!
パコーン
パコーン
くだらない事でケンカしてないで早く学校行きなさいっ
ギャッ
いてえーっ
毎朝毎朝ほんと飽きないんだから…あいつら
ハァ…っ
相楽美佐枝
学生寮の寮母
…ったく
ダダ
は――春だってのにあたしはいつまであいつらの面倒見てるのかしらね――……
もうピー才だってのに…
あ…なんかドツボだわ…これ
…そうそう
あいつにご飯あげないと！
逃避
――って
いないし…
今日はここらの点検だけだな


はい そうっすね
ならお前は 隣やってくれ 頼んだぞ
わかりました 芳野さん
外に出て 行っちゃったの かしら…
あ
ねえ ちょっと そこの人――…
はい？
え
げっ
美佐枝さん…
ポカ
ポカーン


え…
やだ ひょっとして 岡崎?
いえっ 人違いっす
じゃっ!!
じぃっ
やっぱ 岡崎じゃ ないの〜〜っ
いててて
仕事中 なんすよ 俺っ
へぇ? 仕事!?
何やってんの 仕事って?
しまった…
まぁ… 色々と…
ふーーん
でもまぁ よかったじゃ ない
学生んとき 春原と並んで 問題児だった あんたがねぇ…
——って 本当に 本人 なのかしら…
実は クローンなんだ
あ やっぱ 本人だわ
…つーか 何か用 だったんじゃ ねぇの?
くそう
あ
そうそう 忘れてた あんた猫 見なかった?
猫?
…いや 見てねぇけど


もしかして猫ってあの…？
そうそう
前からずっといるあのシマ猫よ！ったくどこ行ったのかしら…
いつも勝手にどっか行っちゃうんだから…
ご飯食いっぱぐれても知らないわよ～
ブツブツ
……
…ま見てないんじゃ仕方ないかもうちょっと探してみるわよ
ありが――
プッ
……
ぶぶぶ
いや…っだって美佐枝さん…
ぷはっ
全然変わってねーなそういうとこ


むむっ
はっ
——そりゃ
あんたたち
みたいのばっか
相手してたらね…
言っとくけど
アンタの代の方が
よっぽど手間
かかったわよ…
う…
はは…
もう終わった事だし
いーじゃん…
おいっ
岡崎!!
ビクッ
はいっ
いけね
俺仕事中なんで
行くよ
またな
美佐枝さんっ
あ
うん
たっ
たたた…
変わったわね
あいつ——…
あんな顔する
奴だったのか…
すいません
若野さんっ


──ん？
芳野…？
うわっ
何？どうしたのっ？
ニャーーーン
よじよじ
ね…猫…!!?
じゃなくって芳野さんっ大丈夫すかっ!?
あわわわ
べりっ
あ!!?
え
芳野裕介…
し…知り合いだったんすか？
…悪いが記憶にない
な…なんですって──!!?
猫返せ!!
これが岡崎 芳野との再会でした
つづかない

クラナドよんこま


……最初から
その人のためだけに
歌っていれば
よかったんだ…
え…じゃあ
芳野さんが
高校の頃
新任の先生って
事は———…
公子さんって
今いくつ
なんですか?
…岡崎
世の中には
知らなくて
いい事が
ふたつある…
ひとつは
女性の年令…
もうひとつは
この町のパン屋の
パンの中身だ…
早苗パン!!?


自分で
思っていた以上に
公子さんが好きです。

6巻お買上げありがとうございます!



6巻はラブラブ同棲編
のつもりで描きました。
今見返すと
芳野フィーバーなのは
気のせいです…

とうとう6巻です!
6巻て…!ヒィー
改めて、こうやってCLANNADを
描かせてもらっている事に
感謝しつつ、アニメの春原が
かわいすぎて仕方ないです。

アニメに合わせての2クール
3冊単行本作業は
とてもしんどかったですが
何か色々勉強に
なりました。
今後も、もうちょっと続きます。
宜しければ最後まで
おつき合いいただけると
うれしいです!

みさき樹里

……✱ Special Thanks ✱……

まりも・夏野さん・あすらくん・森さん
いっちゃん・高部さん・喜多村さん・勝村さん
Keyスタッフ様 .etc…

いつも本当にすみません…
そしてありがとうございます!!

CR COMICS

CLANNAD(クラナド)オフィシャルコミック⑥

●2008年3月15日　初版発行

著者●原作：Key(キー)
漫画：みさき樹里(じゅり)

発行者●石川順恵
発行所●ジャイブ株式会社

〒160-8565 東京都新宿区大京町22-1
●編集／TEL:03(5367)2744
●営業／TEL:03(5367)2725　FAX:03(5367)2709
●注文センター／TEL:049(274)1653　FAX:049(259)5244
●ジャイブHP:http://www.jive-ltd.co.jp

印刷所●図書印刷株式会社
電植製版●株式会社オノ・エーワン

Printed in Japan
ISBN978-4-86176-496-7
初出●月刊COMIC RUSH 2007年12月号～2008年4月号掲載
デザイン●sio
制作協力●有限会社パルプライド（喜多村・和田・田中・勝村・遠藤）



下級生組 その後



智ぴょん出すスキがないです…

ISBN978-4-86176-496-7
C0979 ¥562E

ジャイブ
定価 本体562円 +税



岡崎朋也と古河渚のふたりは、渚の高校卒業を期に入籍し、正式に夫婦となる。守るものができた事で決意を新たにする朋也に、渚は、自分も働きたいと切り出す。ファミレスでウェイトレスを始める事になった渚の様子が気になる朋也は、渚の父・秋生に唆され、バイト先を訪ねるのだが……。